

第1回噴火湾ホタテガイ情報(2014年) 発行日：平成26年2月27日

発行：函館水産試験場・栽培水産試験場・釧路水産試験場、協力：胆振・渡島北部・渡島中部地区水産技術普及指導所

湾内水温は2~3°Cで、平年並みですが、今後、湾口部の低温水が湾内に浸入することで、平年よりも低温化する可能性があります。2001年春先にも、湾内が1.0°C以下に低温化しましたが、ホタテガイの大量へい死や採苗不良および麻痺性貝毒の大規模発生は起きませんでした。この低温の影響を心配する必要はないと考えます。

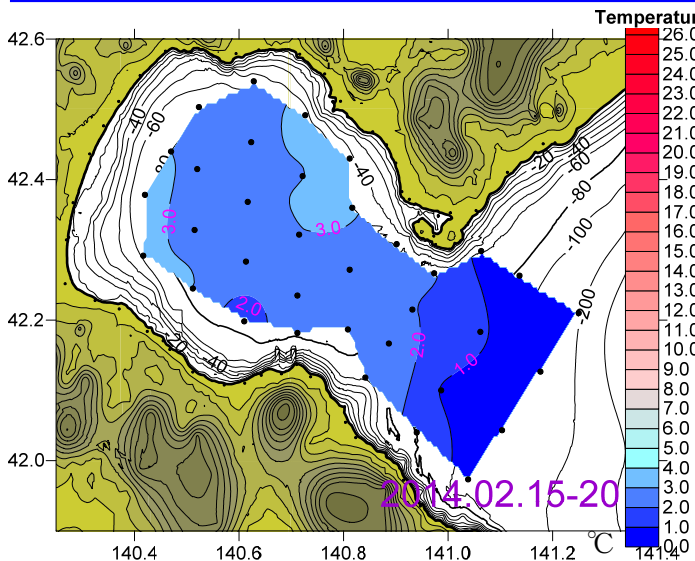


図1. 噴火湾水深10mの水温分布(°C) (2/15-2/20)

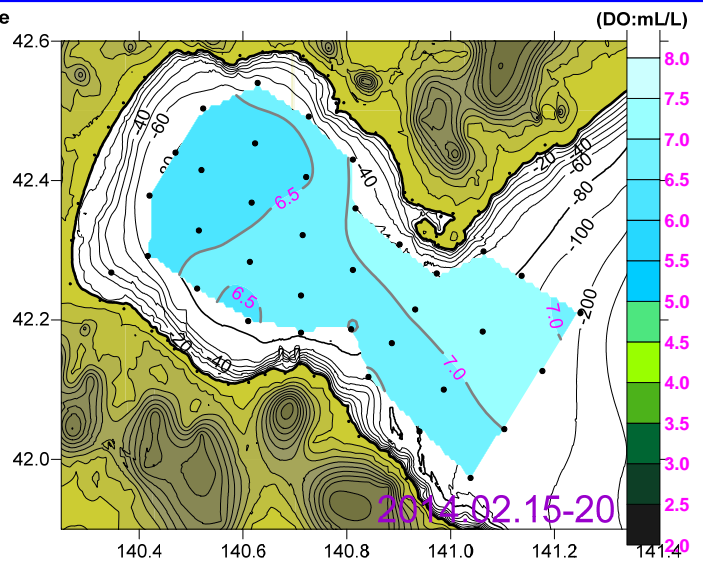


図3. 噴火湾海底上5mの溶存酸素濃度(mL/L) (2/15-2/20)

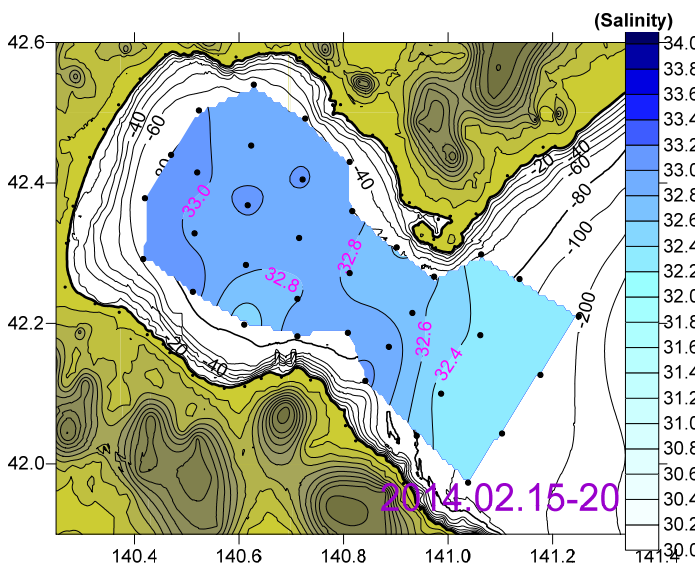


図2. 噴火湾水深10mの塩分分布(2/15-2/20)

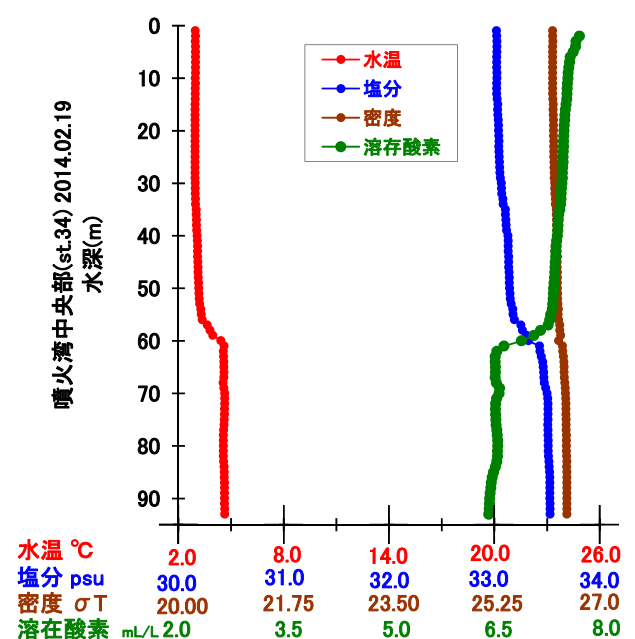


図4. 噴火湾最深部の環境変数鉛直分布 (2/15-2/20)

【概要】 2月15~20日に、釧路水産試験場の北辰丸により、噴火湾の環境調査を行いました。湾内60m以浅の広範囲に低温(2.0~3.0°C)で低塩分(32.8~33.0)の沿岸親潮が侵入しています(図1、2)。さらに低温(1.0~2.0°C以下)で低塩分(32.4~32.6)の海水が湾口部に到達しています。今後、湾口部の海水が湾内に浸入することで、湾内の水温がさらに低下する可能性があります。過去にも2001年に、噴火湾内の水温が1.0°C以下になりました。2001年には、ホタテガイの大量へい死や採苗不良または麻痺性貝毒の大規模発生等は起きていません。この時期の低温水が直接ホタテガイ養殖に悪影響を与える心配はないと考えられます。

昨年の夏~秋に発達していた底層の貧酸素状態は完全に解消されています(図3)。水深60m以浅は、おおよそ水温3.0°C塩分33.0と一定な環境で(図4)、ホタテガイの養殖環境は安定していると考えられます。

噴火湾の環境は「噴火湾環境速報」にも解説しています。こちらも参考にしてください。次回の海洋観測は4月下旬にラーバ調査と合わせて実施する予定です。

(連絡先：函館水産試験場 馬場・渡野邊・金森・佐藤 TEL:0138-57-6074)

この情報は函館水試のホームページからご覧いただけます。 <http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>